第28回埋蔵文化財調査資料展

盛岡を発掘する

—平成22年度調査速報—

あかやきどき【あかやき土器】
土師器（はじき）と似ているが、須恵器（すえき）の技法で作られた赤色系の土器。ロクロを使って作られ、盛岡市内では九世紀から出土するようになる。

あかやき土器の出土状況
（館野前遺跡）

いこう【遺構】
過去の人間が地面に残した不動産的な痕跡。地下に埋没しているものばかりではなく、石垣や寺院などの建物の基壇、古墳の墳丘など地上で観察できるものも含む。

いせき【遺跡】
過去の人間活動の痕跡。遺構や遺物・遺物包含層のある場所で、そのどれかが備わっているものを指す。全国におよそ四四万ヶ所が数えられ、盛岡市内にはおよそ七五〇ヶ所が登録されている。文化財保護法では「埋蔵文化財包蔵地」と呼び、開発の前には発掘調査が義務づけられている。一般的には所在地や字名をもとに遺跡名をつける。遺跡は、人間の歴史を考える上で重要な役割を担う学術資料であるばかりでなく、その地域のオリジナリティを体現する環境の一部である。

いぶつ【遺物】
過去の人間活動の動産的な所産。土器や石器など、過去の人間が加工・製作した人工遺物と、鉱物や動植物の遺存体など、人間活動の結果もたらされた自然遺物との二つに分けられる。

おとしあな【落し穴・陥し穴】
動物を捕獲する目的で作られた罠用の土坑。北海道・東日本を中心に分布し、縄文時代の発見例が多い。落し穴の開口部は円形や長楕円形で、深さ・形態は多様だが、底に向かってしだいに狭くなる形が一般的である。また、底に棒を立てた跡のあるものもある。

かめ【甕】
弥生時代以降の煮炊や液体の貯蔵に用いられた容器の名称。縄文時代の丈の高い広口の器は深鉢と呼ぶ。

かわらけ【かわらけ】
土師器の系譜に連なる素焼きの椀・皿・坏形の土器。都市や城館、寺院などから多く出土する。灯明皿や、儀式・饗宴などにおける酒坏・皿として使われた、都市型・非日常型の土器。素焼きで安価であることから清浄の象徴として、再使用しない慣わしであった。権威の象徴として、儀式・饗宴の規範を実現するために用いられたものと考えられる。

キャリパーがたどき【キャリパー形土器】
縄文土器の深鉢の一器種。大きく外へ膨らんで張り出した口縁部と、その下のやや長い筒状の胴部とからなる。その側面形が、キャリパー（キャリパス）という計測器の、外パスの脚を上へ向けて置いた形に似た曲線になるところから、東京大学人類学教室で生まれた名称である。高さ三〇～四〇㎝が多いが、五〇㎝以上の大型のものもある。

きょうづか【経塚】
経典を土中に埋納した施設。山岳や神社・寺院の境内など、多くは霊地・聖地とされた場所にある。一般的には経典を経筒に納めて外容器に入れ、それを土坑または小石室に埋納し、上を土石で覆う。中世末から近世にかけて、経文の一文字を書いた小石数万点を土中に直接埋めた、一字一石経塚が全国に出現する。

出土した一字一石経
（長善寺経塚）

すえき【須恵器】
窯で千度以上の高温で焼かれた、暗青灰色硬質の土器。古墳時代に朝鮮半島伽耶地方の技術者が渡来し、生産が始まった。ロクロを利用した成形技法と、焼成技法に特徴がある。盛岡市内では八世紀以降に出土するようになる。

せきすい・どすい【石錘・土錘】
石製や土製の錘（おもり）。網の下縁に一定の間隔で吊り下げるもの、釣針にそえるもの、碇に結びつける大型のものなど、多くの用途が考えられる。

たてあなじゅうきょ【竪穴住居】
地面を掘りくぼめ、上に屋根をかけた半地下式の住居。夏は涼しく、冬は暖かい。東北北部では縄文時代早期から古代まで続き、中世に入った後も竪穴建物として、半地下式の建物を利用していた。縄文時代には炉が、古代には壁にカマドが備え付けられていた。

竪穴住居跡
（飯岡沢田遺跡）

つき【坏】
古代のもっとも一般的な食器。椀よりも浅く大型で、皿より深いもの。土師器や須恵器・木製品に多く見られる。時期や地域差で、丸底や平底、ふたの有無、高台の有無などの違いがある。

どぐう【土偶】
縄文時代、人や動物をかたどって作られた土製品。早期に出現し、中期以降に多く、弥生時代には消滅する。北海道から九州まで約一万五千点が出土している。土偶は通常、頭や手足をバラバラに破損され、分離した状態で出土することが多く、完形ないし壊れていても完全な形に復元できるものは少ない。

はじき【土師器】
弥生土器の流れをくむ、野焼きで約七〇〇～八〇〇度の温度で焼かれた軟質の土器。素焼きで、赤・褐色系の色調。古墳～平安時代のものを指し、中世以降の同系統の土器は「かわらけ」などと呼び区別することが多い。

ふかばち【深鉢】
口縁部が大きく開いた鉢形の土器。縄文土器に対して使われる用語。底部に炎による変色がみられ、内外面に煤や炭化物の付着が多いため、おもに食物の煮炊用に使われたことがわかる。

国指定重要文化財
繋遺跡出土深鉢形土器

ほったてばしらたてもの【掘立柱建物】
地面に穴を掘り、そこに下端部を埋め込んで立てた柱で構成される建物。縄文時代から近世まで存続する。柱を埋めるために掘った穴を「掘り方」という。

ませいせきふ【磨製石斧】
石材を磨き上げて仕上げた石斧。おもに木材加工用に用いられた。磨製の技術は、旧石器時代後期にはすでに出現している。日本では、縄文時代から弥生時代にかけて盛行した。

やじり【鏃】
矢の先端につけて狩りなどに使用する。石・鉄・銅など種類や形はさまざまである。縄文時代後・晩期の東日本では、矢柄の固定に使用したアスファルトが付着した石製の鏃が多数出土する。

ろ【炉】
火を焚いた場所。一定の場所で火を焚き続けると、熱で地面が変色する。石で囲んだ石囲炉、土器を埋め込んだ埋甕炉、住居の床面で火を焚いた地床炉など、形態は多種多様である。調理、暖房、照明の機能をはたした。

平成23年2月9日（水）～5月15日（日）

盛岡市 遺跡の学び館

〒020-0866　盛岡市本宮字荒屋13-1
TEL 019-635-6600　FAX 019-635-6605

◆平成22年度調査成果報告会◆

台太郎遺跡・飯岡沢田遺跡・館野前遺跡・
長善寺経塚・志波城跡　（予定）

■日　時　平成23年3月6日（日）　13:30～15:00
■会　場　盛岡市遺跡の学び館　研修室（定員80名）
※入場無料・事前予約不要　　直接会場へどうぞ。

西鹿渡遺跡（にしかどいせき）

第25次調査　三本柳

これまでの調査では、主に奈良・平安時代を中心とした集落跡が数多く確認されています。今回の調査では、奈良時代の竪穴住居跡１棟、時期不明の竪穴状遺構２基、土坑１基を検出しました。竪穴住居跡は、北西壁に構築され、一辺が2.8mの隅丸方形でした。竪穴住居跡と竪穴状遺構からは、土師器の坏・甕、須恵器の甕などが出土しました。

第25次調査区　全景

台太郎遺跡（だいたろういせき）

第72次調査　向中野

これまでの調査では、主に奈良・平安時代を中心とした集落跡、中世の居館跡を中心とした集落跡や墓域、近世の村落などが数多く確認されています。今回の調査では、奈良時代の竪穴住居跡１棟、時期不明の竪穴状遺構２基、土坑５基、溝跡４条を検出しました。竪穴住居跡と土坑からは、土師器の坏・甕などが出土しました。竪穴住居跡の床面中心部に円形の土坑が造られており、その床面からほぼ完形の球胴甕（きゅうどうがめ）2個体が押しつぶされた状態で見つかりました。

第72次調査区　全景

飯岡沢田遺跡（いいおかさわだいせき）
第13次調査　飯岡新田

これまでの調査では、主に奈良・平安時代を中心とした集落跡と墓域が確認されています。今回は、奈良時代の竪穴住居跡１棟、平安時代の竪穴住居跡１棟、時期不明の竪穴状遺構１基、土坑11基、溝跡２条を検出しました。竪穴住居跡からは土師器の坏・甕、あかやき土器の坏・甕、須恵器の坏などが出土しました。土坑２基の埋土から、焼土・炭化物が多く見つかっており、炭や土器を焼いて作っていた場所の可能性があります。

第13次調査区　全景

二又遺跡（ふたまたいせき）
第9･10次調査　下飯岡

これまでの調査では、平安時代の集落跡が確認されています。今回は、平安時代の竪穴住居跡５棟、竪穴状遺構５基、土坑４基を検出しました。竪穴状遺構はカマドを伴わず一辺 2m～ 3mほどの小型なものでした。竪穴住居跡からは土師器・須恵器の坏・甕などが出土しました。今回の調査で、遺跡中央部にも竪穴住居跡が広がっていることが確認できました。

第9次調査区　全景

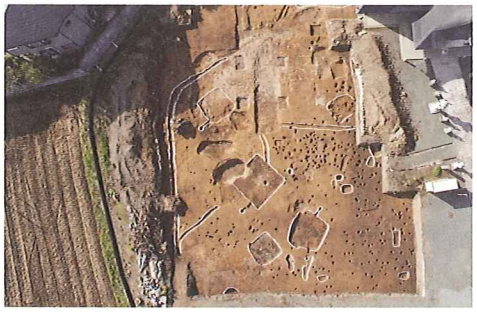
小山遺跡（こやまいせき）
第35次調査　東中野

これまでの調査で、縄文時代中期を中心とした集落跡が確認されています。今回は、縄文時代前期末葉の竪穴住居跡１棟のほか、縄文時代前期末葉～中期初頭中心の土器・石器、少量の縄文時代早期の土器片や弥生時代中期の甕、平安時代の土師器、漁に使用したと思われる石錘（網のオモリ）も発見されました。

第35次調査区　全景

館野前遺跡（たてのまえいせき）
第1次調査　上飯岡

今回、平安時代の竪穴住居跡５棟、古代～江戸時代の土坑15基、溝跡４条、柱穴約300口などを検出しました。竪穴住居跡の規模は、大型のもので一辺約5m、小型のもので一辺約3mを測ります。竪穴住居跡からは、土師器や須恵器の坏・甕、水場遺構からは鍍金（ときん）された煙管も出土しました。



第1次調査区　全景

長善寺経塚（ちょうぜんじきょうづか）
上飯岡

寺院建築に伴う忠霊塔の移設工事をした際に、偶然に地下から発見されました。経塚の規模は、約2.4m×1.8mの長方形で深さは約40cm～50cmと考えられます。経塚の中には、小石１個に一字の経文を墨で書写した「一字一石経」と呼ばれる経石が隙間なく埋納されていました。現在、経塚は現地保存するために埋め戻してあります。

経塚　全景

盛岡市内の主な遺跡と時代

時代		年代	西暦	主な出来事	市内の主な遺跡	今年度調査遺跡
原始	旧石器時代			大陸と地続き、大型の動物が生息する	小石川遺跡（玉山区藪川）	
	縄文時代 草創期	15,000年前		土器の使用がはじまる	大新町遺跡（大新町）	
	縄文時代 早期	8,000年前		定住化がすすむ	館坂遺跡（前九年） 庄ヶ畑A遺跡（上米内） 大新町遺跡（大新町） 日戸遺跡（玉山区日戸） 新茶屋遺跡（山岸）	
	縄文時代 前期	6,000年前		気候の温暖化、海面の上昇 漁労の発達、各地に大型住居が出現	上八木田遺跡（新庄） 畑遺跡（上米内）	
	縄文時代 中期	5,000年前		各地に大規模な縄文集落が発達	【県史跡】大館町遺跡（大新町） 柿ノ木平遺跡（浅岸） 繋Ⅴ遺跡（繋） 上米内遺跡（上米内） 川目C遺跡（川目） 湯沢遺跡（湯沢）	小山遺跡（東中野）
	縄文時代 後期	4,000年前		気候の寒冷化 ストーンサークルがつくられる	大葛遺跡（浅岸） 落合遺跡(下米内) 萪内遺跡（繋）	上堂頭遺跡（上堂）
	縄文時代 晩期	3,000年前		東日本で亀ヶ岡文化が栄える	上平遺跡（猪去） 手代森遺跡（手代森） 川目A遺跡（川目） 宇登遺跡（玉山区川又）	繋Ⅴ遺跡（繋）
弥生・古墳	弥生時代	2,000年前	紀元前 紀元後 57	水田耕作の開始 金属器の使用が始まる 倭の奴国王が後漢の光武帝より印綬を賜る	手代森遺跡（手代森） 繋Ⅵ遺跡（繋） 一本松遺跡（下米内）	
	古墳時代	1,700年前	239	邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを出す ヤマト政権、統一進む	永福寺山遺跡（下米内） 薬師社脇遺跡（浅岸）	
古代	飛鳥時代	1,400年前	593 645	聖徳太子が摂政となる 大化の改新	上田蝦夷森古墳群（黒石野） 竹鼻遺跡（上鹿妻）	
	奈良時代	1,300年前	710 724	平城京に都をうつす 多賀城が築かれる	太田蝦夷森古墳群（上太田） 百目木遺跡（三本柳） 台太郎遺跡（向中野） 釜崎遺跡(玉山区好摩) 西鹿渡遺跡（三本柳） 永井古墳群（玉山区永井）	台太郎遺跡（向中野） 西鹿渡遺跡（三本柳）
	平安時代	1,200年前	794 894	平安京に都をうつす 胆沢城(802)志波城(803)徳丹城(812)が築かれる 遣唐使が停止される	舘・松ノ木遺跡（上太田） 【国史跡】志波城跡（下太田） 台太郎遺跡（向中野） 前野遺跡（浅岸）	館野前遺跡（上飯岡） 【国史跡】志波城跡(下太田) 矢盛遺跡（向中野）
	平安時代	1,000年前	1016 1051 1083 1124 1189	藤原道長が摂政となる 前九年の戦い（～1062年） 後三年の戦い（～1087年） 中尊寺金色堂完成 奥州藤原氏滅亡	乙部方八丁遺跡（乙部） 林崎遺跡（下太田） 芋田遺跡（玉山区芋田） 稲荷町遺跡（大館町・稲荷町） 内村遺跡（下飯岡）	夕覚遺跡（飯岡新田） 細谷地遺跡（向中野） 飯岡沢田遺跡（飯岡新田） 台太郎遺跡（向中野） 二又遺跡（下飯岡） 西鹿渡遺跡（三本柳）
中世・近世	鎌倉時代	800年前	1192	源頼朝が征夷大将軍となる 文永の役(1274)　弘安の役(1281)	大宮遺跡（本宮） 堰根遺跡（浅岸）	
	室町時代	600年前	1336 1338 1404 1467	南北朝に分かれ、対立する 足利尊氏が征夷大将軍となる 足利義満、明との貿易を開始する 応仁の乱	台太郎遺跡（向中野） 落合遺跡(下米内) 里館遺跡（天昌寺町） 安倍館遺跡（安倍館町） 日戸館遺跡（玉山区日戸） 下田館遺跡（玉山区下田）	
	安土桃山時代		1588 1590	南部信直が紫波郡を攻略する 豊臣秀吉が天下を統一する	玉山館遺跡（玉山区玉山） 【国史跡】盛岡城跡（内丸）	
	江戸時代	400年前	1603 1641 1853	徳川家康が征夷大将軍となる 鎖国の体制が固まる アメリカの使節ペリーが浦賀に来る	一里塚 南部家墓所（北山） 山蔭窯（茶畑）・花古窯（新庄）	西黒石野遺跡（黒石野） 長善寺経塚（上飯岡）
近代	明治時代	150年前	1867	大政奉還　王政復古の大号令		